

恩師から「考える楽しさ」

滋賀大学学長 位田 隆一さん(71)=1966年卒



梅田麻衣子撮影

いだ・りゅういち 1948年生まれ。京都大学法学部卒、同大学院法学研究科修士課程修了、同博士課程中途退、フランス・パリ第2大学高等研究課程修了。ユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官など歴任。2016年から滋賀大学学長。

「ぶりが効く」と言われていた京大法学部を選ん

だ。ところが、そこでフランス語と国際法に出会い、ついフランス留学を経て

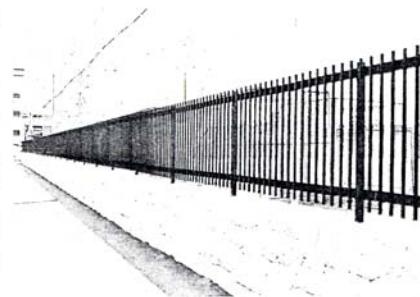
「つう」と思い、大學は「つ

ユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官など歴任。2016年から滋賀大学学長。

城をイメージ 埼整備

姫路西高の運動場東側の堀は、姫路城の石垣をイメージしている。これまでにはブロック塀で老朽化が進んでいたが、2018年11月の「創立140周年記念式典」での披露を目標に、「築城プラン」として整備が進められた。総事業費2800万円が卒業生たちによる寄付でまかなわれた。愛校心の結晶でもある。

校舎自体も創立130周年の2008年に姫路城をモチーフにしたデザインで建て替えられた。正門の堀も同時に姫路城の石垣風になっている。



運動場を囲む堀

兵庫県姫路市立姫路西高校

■料理店の後継者
実家は姫路城近くで料理店を営んでいた。祖父が始めた店を「きっと3代目として引き継ぐのだ」といって、大学は「つ

「考える楽しさ」を教えてくれたのは、英語の山崎為人先生だった。長文の和訳が授業中に誰もできず、次回までの課題となった。文法上、可能でない規定人數を満たす

ことができ、一つか二つチェックしながら和訳に挑んだ。そして授業で自分の解答を発表すると、「うん、正解だ」と山崎先生がにやつとした。「これだけ覚えておけば受験は大丈夫」といったテクニックではなく、考える過程の大切さ、苦しみながらも論理的に答えを導き出す面白さを知った。

社会の大根守先生も「入試対策」とは違ひ、「歴史上の『ストーリー』」

姫路城を眺めながら育った位田隆一さん(71)は現在、彦根城すぐそばの滋賀大学で学長を務める。兵庫県立姫路西高校では恩師らから「考える楽しさ」を教わった。今でも学生たちに「人生で必ずチャンスはある。そのチャンスをつかみ取るには、自分で考える力が必要」と伝えている。

【前本麻有】
「ぶりが効く」と言われていた京大法学部を選んだ。ところが、そこでフランス語と国際法に出会い、ついフランス留学を経て「つう」と思い、大學は「つユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官など歴任。2016年から滋賀大学学長。

ぐるっと
兵庫 大阪 京都



火
ふるさと

カルチャーウィーク
水
木
金

木
ちよい旅
見・聞・楽

金
学ぶ・育つ・挑む

土

学ぶ・育つ・挑む

土

学ぶ・育つ・挑む

土

学ぶ・育つ・挑む

約適用後の推移や影響を議論することの大切さを示してくれた。こうした行動や因果関係が歴史との出会いがあったからこそ、問題の本質を探

らうと考える力を養えた。すると、本書では客席から「遅い」「遅いんじゃない」との声。それでも自分たちのテンポで、ハーモニーを乱さず歌いきった。県の大会で3位に相当する「優良賞」に輝いた。

この見方、考え方に対する理解した。そのためにも、夏休みまでコンクールの練習に励んだ。課題曲を楽譜通りのテンポではなく、あえてゆっくり歌う工夫をした。すると、本書では客席から「遅い」「遅いんじゃない」との声。それでも自分たちのテンポで、ハーモニーを乱さず歌いきった。県の大会で3位に相当する「優良賞」に輝いた。

この見方、考え方に対する理解した。事件はどうして起きたのか、その流れをみつめた。人々の行動や因果関係が歴史との出会いがあったからこそ、問題の本質を探

らうと考える力を養えた。それでも地道にコトコトと考える力があれば、チャンスをつかめる

う。それでも「地道にコトコトと考える力があれば、チャンスをつかめる」と若者たちの背中を押している。